

第37回宮前地区青少年作品展『書道の部』講評

宮前区では、たくさんの子供たちが書道に取り組んでくださっていてうれしく思います。どの作品からも、文字に真剣に向き合う姿を感じました。

毛筆で大事なことは、第一が筆づかいです。みなさん、筆を入れる始筆、むずかしい終筆の「とめ・はね・はらい」が上手に書けていました。筆づかいを身に付けるために、何回も繰り返し練習したことでしょう。さらに、字形も整えなくてはなりません。先生のお手本をよく見て練習した成果が出ています。穂先の動きにより点画がつながることで、文字としてのまとまりが生まれます。

「こんなふうにかきたい」というめあてをもって書く、意識して書くことで、「うまく書けた！」と喜びを味わうことができます。うまく書けると嬉しいですね。

もう一つ大事なことは、紙に合った大きさ・太さの文字をバランスよく書くことです。文字の中心と行の中心が整うと作品が引き立ちます。大きな紙に大きく大きくりっぱに書くには、学校では使わない大きな筆を使ったのではないのでしょうか。大きな筆を使いこなして書くことができていると素晴らしいと思いました。また半紙に4文字・5文字を書くのも大変だったと思います。がんばったことが伝わってきました。今年は宮前区区制40周年ということで、3賞に加え「区制40周年記念賞」を選びました。

作品を審査するにあたって大事にしたことは、「その子らしさ」です。作品から、その子の「希望」や「未来」、「こうふく」を感じたり、友達と楽しく学ぶ姿が想像できたりしました。それは、優劣をこえるものです。

これからも、たくさんの子どもたちが筆を持って文字を書くことを楽しんでほしいと願っています。

審査員 川崎市立虹ヶ丘小学校 校長 井上 恵子